

# ツリガチ!

TSURI GACHI

★気軽なタックルで  
負担が少なく、釣り方はカンタン。  
そしてだれにでもチャンスが  
あるのがスーパーライトジギングだ。  
今回は外房勝浦興津港の第五庄之助丸で  
SLJを楽しんだヨッシー。気温、水温とも  
ダダ下がりのタブコンディションだったが  
庄之助船長とガッチリとタッグを組んで  
最高のドラマを見せてくれた!

## 春の外房SLJ

Super Light Jigging

文◎高橋 剛



外房・興津沖の海に、真紅の  
マダイが弾けた。  
4.5キロ、3.7キロ、3.4キロ、そ  
して2.2キロ。4枚もの素晴らしい  
き良型マダイは、すべて外房勝  
浦興津港・第五庄之助丸のSL  
J、スーパーライトジギングで  
の釣果である。

春らしい穏やかな陽気の下、  
イワシの群れの中でマダイが炸  
裂したのは、我われツリガチ取  
材班が訪れる……前日だった。  
前日に、好釣果出ガチ……。

ちなみに「炸裂」は、秋葉庄  
之助船長の口癖である。そして  
この「炸裂」こそが、SLJの  
魅力を存分に表している。  
では、当日は……? 炸裂し  
たのか、どうなのか……?

3月22日、強い北風と雨粒が  
容赦なく襲いかかるタブコンデ  
イションの中、第五庄之助丸に  
乗り込んだ。

前日の陽気はどこかに消え失  
せ、信じられないほど寒い。

「防寒着、もうしまおうかと思  
つてたんすよ」と苦笑いするの  
は、ヨッシーの釣友であり当企  
画のマスコットキャラクター、  
イチロウこと鹿島一郎さんだ。

ヨッシーも、ライターのタカ  
ハシゴーもみんなブルブルと震  
えている。寒さのせいばかりで  
はない。武者震いも(ちよつと

だけ)含まれている。

「今日も何かが炸裂するか  
もしれない」という期待は  
高いのだ。根周りを攻める  
庄之助丸のSLJには、い  
つ、何が飛び出すか分から  
ないビックリ箱のようなワクワ  
ク感がある。

だが、それ以上の不安があつ

## 庄之助式のアナウンスは、 海底のイメージが3Dになる。

春はいつだって、ジェットコ  
ースターのように激しくウネリ  
ながらやってくる。上がって、  
下がって、もがきながら強引に  
長い冬を終わらせようとする。

我われが庄之助丸を訪れたのは、  
ちょうど谷にあたる日だった。

冷たい雨としぶきが船を打つ。  
我われの武器は、大海原を自由  
に泳ぐ魚に立ち向かうにはあま  
りにも小さな、40〜80グラム程  
度のジグ。そして、庄之助船長  
のアナウンスだ。

一度でも庄之助丸に乗った人  
は、庄之助船長のアナウンスの  
とりこになる。ヨッシーも、そ  
のひとりだ。過去に何度か経験  
し、そのスゴさにシビれている。

「これガチなんだけど、3Dで  
海底が見えるんだ」と、ヨッシ  
ーは言う。



▲急激な冷え込みにより、かじかむ手でリーリングするヨッシー

たのも事実だ。外房は強い北向  
きの風雨に見舞われ前日より気  
温が一気に下がっていた。

「興津沖の根は荒く、激しい。  
そびえ立つ壁みたいな根もある。  
でも、庄之助船長のアナウンス  
を聞いていると、海底の様子が  
手に取るように分かるんだ。

情報をもらえるのは、釣る側  
としては最高にありがたい。自  
分なりの釣りの組み立てができ  
るからね。ブルブル」

寒さに震えながらも、庄之助  
船長のアナウンスの素晴らしい  
を熱弁するヨッシーである。  
「コンピラダシのタカネです」

「興津沖のテラダシを流してみ  
ましよう」など、根の名前をひ  
とつひとつ教えてくれる庄之助  
船長。まるで観光ガイドだ。

「根の名前を漢字でどう書くか  
? 分かんないからカタカナに  
しといてください」と笑う。海  
の男たちの間で受け継がれてき